

令和3(2021)年度 各部・各学年・各学科の具体策評価

本年度の重点目標

1. 生徒に対して ①学習指導の充実 ②進路指導の充実 ③生徒指導の充実
2. 保護者に対して ①普段からの連携と信頼関係の構築
3. 地域に認められる学校づくり ①情報発信 ②地域貢献
4. 行事の精選（特別活動・各学科等で教育課程への位置づけ）
5. 職員 ①働き方改革の推進②チーム北陵・目標の共有・働きやすい職場
6. 新しい動きへの検討 ①新教育課程の検討②大学入試改革制度等の検討③ユネスコスクールとしての意識

| 部・学年・科 | 重点目標                        | 具体策   | 評価基準   | 評価   |
|--------|-----------------------------|---|--|--|
| 教務部    | 2                           | コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、保護者、生徒への対策の周知を図る。   | アンケート「感染症対策は適切である」の結果の改善が昨年度と比較し10%以上改善…A 0～10%未満改善…B 改善されなかった…C   | B  |
|        | 6                           | 生徒の振り返りや授業改善につながる観点別評価のあり方について十分に検討し、準備支援や情報提供を行う。  | 十分に検討し準備支援することができた…A 準備支援することができた…B 十分に支援できなかった…C  | A  |
|        | 3                           | H Pを利用して情報発信を行い、学校の様子や学校の特色をよりわかりやすい形で伝える。  | 十分に情報発信することができた…A 情報発信できた…B 十分に情報発信をできなかった…C   | B  |
| 学習指導部  | 1                           | 欠課時数超過者や成績不振者に対し、関係職員と緊密に連携し、迅速かつきめ細かに指導を行い、2学期末時点の欠点者数を昨年度より減少させる。   | A…半減以上<br>B…昨年度より減<br>C…上記以外   | B  |
|        | 6                           | 新教育課程の運用に向けた環境整備の一環として、シラバスや学習指導計画表等の一元化・システム化した様式の作成や、増加単位対応表の改正のための学科調査、作成されたシラバスの審査等必要な取り組みを行う。  | A…5つ以上実施<br>B…1つ以上実施<br>C…計画は立てたが、実施せず、または計画でぎす  | B  |
|        | 6                           | タブレット端末やプログラミング教材の活用促進のため、必要な校内研修や研究授業を実施する。  | A…合わせて5回以上実施<br>B…1回以上実施<br>C…実施せず   | A  |
| 特別活動部  | 3                           | 1. 生徒会活動、部活動、家庭クラブ活動等特別活動の活性化に努める。<br>(1) 自主的かつ規律ある活動を促し、生徒自ら行動できるように指導する。<br>(2) 生徒一人ひとりが意欲的に活動に参加し、達成感を得られる行事の運営に努める。                                       | A…十分にできた B…できた C…できなかった  | B  |
|        | 3                           | 2. 部活動の活性化と成果を目指した指導の充実を努める。<br>(1) 学年や部顧問と連携して、部活動の加入率および継続率向上を図る。<br>(2) 活動場所および部室の管理指導を行い、本校の活動方針に則した活動を行う。<br>(3) 学校ホームページを活用し、活動の発信に努める。                 | A…十分にできた B…できた C…できなかった  | B  |
|        | 1                           | 各学科・各学年との連携を図り、組織的系統的な進路指導体制の構築と学科の特性に合った資格取得の推進、その学びを活用して進路実現をできるような指導・支援をする。  | A…十分にできた B…できた C…できなかった  | B  |
| 進路指導部  | 1                           | 各学科・各学年・学習指導部との連携を図り、大学入試制度改革・就職求人状況・模擬試験やポートフォリオの活用法等の情報をホームページを活用して適宜提供する。  | A…十分にできた B…できた C…できなかった  | B  |
|        | 1                           | 卒業後の環境に速やかに適応するために、元氣な挨拶と礼儀正しい言動がとれるよう、普段からきめ細かい指導を行う。  | A…十分にできた B…できた C…できなかった  | B  |
|        | 3                           | 地元を愛し、地域産業に貢献できる人材を育成できるよう、適切な情報提供と進路支援を行う。   | A…十分にできた B…できた C…できなかった  | B  |
| 生徒指導部  | 1                           | 基本的な生活習慣の確立を図り、集団の一員であることの自覚を促す。<br>(1) 挨拶を励行する。<br>(2) 高校生として適正な身だしなみを身につけさせる。<br>(3) 時間厳守、規則遵守の意識を醸成する。   | (1) 挨拶を励行する。<br>・自ら挨拶できる生徒の割合が A…約80%以上 B…約70%程度 C…約60%以下<br>・生徒間の言動でのトラブルが A…無かった B…5件未満 C…5件以上<br>・服装頭髪指導の再発者が A…約10%未満 B…約15%未満 C…約15%以上<br>(3) 時間厳守、規則遵守の意識を醸成する。<br>・学校全体の遅刻者が A…1%未満 B…2%未満 C…2%以上   | B  |
|        | 1                           | 豊かな人間性の育成に努め、生きる力を身につけさせる。<br>(1) 相手の気持ちを考えて、不快感を与える言動・行動がないよう意識させていく。<br>(2) 個を認め合い、思いやりのある行動が取れる力を身につけさせる。  | (1) 相手の気持ちを考え、不快感を与える言動がないよう意識させていく。<br>・生徒間の言動でのトラブルが A…無かった B…5件未満 C…5件以上<br>(2) 個を認め合い、思いやりのある行動が取れる力を身につけさせる。<br>・学校生活の中で思いやりのある行動が A…多々見られた B…ある程度見られた C…全く見られなかった  | B  |
|        | 1                           | 地域社会や関係機関との連携を図り、交通安全教育の徹底に努める。<br>(1) 交通ルール遵守やマナー向上を意図させる。<br>(2) 危険を予測する力を身につけさせ、交通事故防止に努める。<br>(3) 自転車保険への加入を推奨する。<br>(4) スポーツタイプの自転車使用者はヘルメットの着用を努力義務とする。 | (1) 交通ルール遵守やマナー向上を意図させる。<br>・交通に関する苦情が A…無かった B…5件未満 C…5件以上<br>(2) 危険を予測する力を身につけさせ、交通事故防止に努める。<br>・交通事故が A…無かった B…5件未満 C…5件以上<br>(3) 自転車保険への加入を推奨する。<br>・保険加入率が A…100% B…80%以上 C…80%未満<br>(4) スポーツタイプの自転車使用者はヘルメットの着用を努力義務とする。<br>・ヘルメット着用率が A…70%以上 B…60%程度 C…50%以下 | C  |
|        | 1-2                         | 生徒理解や生徒把握に努め、生徒個々に合った適切な指導援助を行う。<br>(1) 生徒へ積極的に関わり合いを行い、生徒理解に努める。<br>(2) 学年・学科・保健室等で密に情報交換を行い、生徒の理解・指導に努める。<br>(3) 家庭的背景を十分に把握した上で、生徒に応じた指導援助を心がける。           | (1) 生徒へ積極的に関わり合いを行い、生徒理解に努める。<br>・声かけや面談を A…ほぼ全職員行った B…多くの教員が行った C…限られた教員しか行かなかった<br>(2) 学年・学科・保健室等で密に情報交換を行い、生徒の理解・指導に努める。<br>・学年・学科・保健室が A…十分機能した B…機能した C…機能しなかった<br>(3) 家庭的背景を十分に把握した上で、生徒に応じた指導援助を心がける。<br>・家庭的背景を A…十分に把握、配慮できた B…把握、配慮できた C…あまり把握、配慮できなかった    | B  |
|        | 1                           | 危機管理意識の高揚に努める。<br>(1) 貴重品、自転車等の管理を徹底させる。<br>(2) 不審者と遭遇した場合の適切な対応等を身につけさせる。  | (1) 貴重品、自転車等の管理を徹底させる。<br>・紛失や破損などが A…無かった B…3件未満 C…3件以上<br>(2) 不審者と遭遇した場合の適切な対応等を身につけさせる。<br>・不審者に遭遇したときに A…回避、通報等ができた B…回避、通報のどちらかができた C…何もできなかった  | B  |
|        | 1                           | 特別支援教育における支援の方法を検討する。<br>(1) 支援が必要な生徒一人ひとりの特性に応じた支援の手だてを検討する。<br>(2) 校内研修会を開き特別支援に関する職員共通理解を得る。<br>(3) 支援が必要な生徒に対し、保護者と連絡を取りながら関係機関との連携を図り適切な援助を行う。           | (1) 支援が必要な生徒一人ひとりの特性に応じた支援の手だてを検討する。<br>・支援が必要な生徒に A…十分な手だてを講じられた B…手だてを講じられた C…手だてが不十分であった<br>(2) 校内研修会を開き特別支援に関する職員共通理解を得る。<br>・校内研修会の開催が A…2回以上 B…1回 C…実施できなかった<br>(3) 支援が必要な生徒に対し、保護者との連携、関係機関との連携を図り適切な援助を行う。<br>・保護者、関係機関と A…十分な連携が図れた B…連携が図れた C…連携が不十分であった   | A  |
|        | 渉外部                         | 3   | P T A、同窓会・諸団体からの要請に対応できる体制を確立し、連絡調整を余裕もって行う。   | A…全ての体制を確立し、余裕もって連絡調整できた。<br>B…体制の確立はできたが、余裕を持った連絡調整が難しかった。<br>C…体制の確立、連絡調整も滞った。 |
| 3      |                             | 各種行事への積極的な参加・協力を依頼する。   | A…各団体2割以上の役員の方が出席した。<br>B…各団体6割程度になった。<br>C…各団体6割未満だった。  | B  |
| 健康指導部  | 4                           | 保健委員会活動を年間（毎月）を通して充実させる。  | A…ほぼ毎月活動できた B…隔月程度活動できた C…十分な活動ができなかった   | B  |
|        | 1                           | 心の健康問題について、教育相談係や担任と連携をとり、情報を共有し組織的な対応を行う。  | A…情報を共有し組織的に対応できた<br>B…情報の共有または組織的対応のどちらが不十分であった<br>C…情報の共有及び組織的対応とも不十分であった  | B  |
|        | 1-5                         | 職員及び生徒の防災意識の向上を図る。  | A…防災訓練等を通し、教職員・生徒の防災意識の向上が見られた<br>B…防災訓練等を行ったが、教職員・生徒の防災意識は現状維持であった<br>C…防災訓練等を行ったが、教職員・生徒の防災意識の低下が見られた  | B  |
|        | 3                           | 校内の老朽箇所及び危険箇所の発見と対応を図る。   | A…老朽化・危険箇所を発見積極的に発見し対応することができた<br>B…老朽化・危険箇所を発見し対応することができた<br>C…老朽化・危険箇所を発見できなかった  | B  |
| 6      | 自販機周辺のゴミ（ペットボトル等）の管理の徹底を図る。 | A…十分な管理をおこない清潔な状態を保ち整理できていた<br>B…管理をおこない整理できていた<br>C…管理が不十分であり不衛生な状態の時があった  | A  |  |

|         |   |  |  |   |
|---------|---|--|--|---|
| 1 学年    | 1 | 基本的な生活習慣の確立のため遅刻について学年全体で指導を行う   | 遅刻者数が学年平均 A…2名程度<br>C…6名程度 B…4名程度<br>D…6名以上  | B |
|         | 6 | 進路意識の醸成を目指し、ポートフォリオに取り組む   | 進路意識が高まった生徒の割合<br>(実力テストアンケート) A…70%以上<br>C…30%以上 B…50%以上<br>D…30%以下                                       | D |
|         | 1 | 基礎学力の向上を目指し、家庭学習の習慣をつけさせる  | 家庭学習の時間が増加した生徒の割合<br>(実力テストアンケート) A…70%以上<br>C…30%以上 B…50%以上<br>D…30%以下                                    | C |
| 2 学年    | 1 | 進路意識の醸成を目指し、進路ガイダンスや進路講話を積極的にを行う   | 進路ガイダンスや進路講話の実施<br>A…開催3回 B…開催2回 C…開催1回  | C |
|         | 1 | 基礎学力の向上を目指し、学習の習慣をつけさせる  | 基礎学力の向上に取り組めた生徒の割合<br>(学校評価アンケート) A…70%以上<br>B…50%以上 C…30%未満   | A |
|         | 1 | 基本的な生活習慣(身だしなみやマナー、決まりの遵守など)の確立させる。  | 基本的な生活習慣が身についた生徒の割合<br>(学校評価アンケート) A…70%以上<br>B…50%以上 C…30%未満  | A |
| 3 学年    | 1 | 進路決定100%を目指す   | A…100% B…98% C…98%未満   | B |
|         | 1 | 学期赤点取得科目延べ数0科目を目指す   | A…0科目 B…1～5科目 C…5科目以上  | C |
|         | 1 | 学年行事の実施報告をホームページ上で行う   | A…100% B…80%以上 C…80%未満   | A |
| 生物生産科   | 3 | HPを通して、授業や実習の様子、地域貢献活動などを積極的に発信する。   | A…20回以上実施 B…10回程度実施 C…実施せず   | B |
|         | 4 | 地域貢献活動の実施について、コロナ禍において適切に実施できるかどうか、内容を十分に検討し、行事を精選する。  | A…十分に見直すことができた<br>B…見直すことができた<br>C…見直しができなかった  | B |
|         | 6 | 新教育課程の実施に向け、評価の在り方について十分な検討と実践を行う。   | A…十分に検討・実践できた<br>B…検討・実践できた<br>C…検討・実践できなかった   | B |
| 農業機械科   | 1 | 教科指導において実践的な指導と各種資格取得を通して、知識・技術の向上を図る。   | 各学年3つ以上の資格を取得できた生徒の割合<br>A…80%以上 B…70%以上 C…70%未満   | A |
|         | 1 | 安全な実習を実施するために、各学年での安全教育を行い、5S及びヒヤリハットを周知させ、安全意識の向上を図る。   | A…機械等による事故や怪我がなく、生徒の安全意識が向上した。<br>B…機械等による事故や怪我がなく、安全な農場実習が実施できた。<br>C…事故や怪我を防ぐことができなかった。                  | B |
|         | 1 | 各自の適性にあった進路選択ができるよう、大学や企業見学、地域ボランティア活動への参加を実施し、進路実現に向けた意識向上を図る。  | アンケート実施にて進路意識の向上の割合<br>A…80%以上 B…70%以上 C…70%未満   | B |
| 食品科学科   | 1 | 昨年度は、上級学校の見学・体験、企業見学などの実施については感染症対策の観点から充実させることができなかった。そのため、専門科目の学習を通じて関連づけて指導を行うほか、WEBを利用した見学会などを活用することにより進路意識の向上につなげる。 | アンケートを実施し、次のように評価する。<br>A…90%以上が進路意識が高まり、明確な目標を定められた。<br>B…70%以上に進路意識の向上がみられた。<br>C…進路意識の向上がみられた生徒が70%未満   | B |
|         | 2 | 将来の進路に関連づけて資格取得の指導を強化する。   | A…例年に比べて多くの生徒が資格取得した。<br>B…例年通りの結果だった。<br>C…例年に比べ、取得率が低下した。  | B |
|         | 3 | 地域と連携した活動を継続的に行う他、研究活動の教科を目指す。   | A…例年以上に学科の生徒が地域交流に参加する他、食品化学や微生物学を基盤とした研究活動にも積極的に取り組めた。<br>B…例年通り地域交流活動に取り組めた。<br>C…例年に比べ地域と連携した活動を行えなかった。 | A |
| 総合ビジネス科 | 1 | 1年生 反復学習による技術知識の定着を図り、資格取得に積極的に挑戦させ、1つ以上の検定には必ず合格することで自己肯定感を高める。   | A…全員が1つ以上の検定に合格できた。<br>B…95%以上の生徒が検定に合格できた。<br>C…90%以上の生徒が検定に合格できた。  | A |
|         | 1 | 2年生 学校行事や地域事業に積極的に参加することで、自己の進路を考察し、高い勤労観・職業観を育成する。また専門的な知識や・コミュニケーション能力を身につけさせる。  | A…例年に比べ積極的に取り組むことができた。<br>B…例年並みの取り組み状況であった。<br>C…例年に比べ消極的な取り組みであった。                                       | C |
|         | 1 | 3年生 課題研究や総合実践の科目を通して、自ら課題を発見し、創造力を発揮し、実社会のビジネスの諸活動において困難な問題を積極的に解決できる能力を育成する。  | A…積極的に取り組みにより問題解決できた。<br>B…積極的に取り組みにより能力向上が見られた。<br>C…例年より消極的な取り組みとなった。                                    | B |
| 介護福祉科   | 1 | 介護福祉士国家試験の高い合格率を目指す。   | A…90%以上 B…全国平均以上 C…全国平均未満  | A |
|         | 2 | 福祉に関係する関係機関と連携を図り、専門性の高い授業を展開する。   | A…十分に探求する授業となった。<br>B…例年並みの取り組み状況である。<br>C…例年より消極的な取り組みとなった。   | A |
|         | 3 | ユネスコスクールの登録に向け、福祉の視点を持って、校内外の活動に取り組む。  | A…生徒が主体的に取り組むことができた。<br>B…例年並みの取り組み状況である。<br>C…例年より消極的な取り組みとなった。   | A |